

2020年9月(No.sh0329)

サントリーホール ジルヴェスター・コンサート 2020～2021 ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団



昨年の公演より

優雅なウィーンの調べと共に、新年を迎える年越しコンサート サントリーホールの大晦日恒例、ゆったりした雰囲気で大人数のカウントダウンを

サントリーホールは、「サントリーホール ジルヴェスター・コンサート 2020～2021 ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団」を、2020年12月31日(木) 22:00 から 2021年元旦にかけて開催します。

ジルヴェスター・コンサートは、本場ウィーンから**ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団**を迎えて、ウィнна・ワルツやポルカの心躍る音楽とともに過ごし、ゆったりとした雰囲気で行うサントリーホールの大晦日恒例の人気企画です。

ヨハン・シュトラウスⅡ世のオペレッタ『こもり』より チャールダーシュ「故郷の調べは」や、カールマンの『マリツァ伯爵家令嬢』より「ジプシーが弾くヴァイオリンを聴けば」など、優雅で美しい名曲の数々をご堪能いただけます。シェーンブルン宮殿オーケストラの首席指揮者を務めるなど、ウィーンを中心に国際的に活躍する**グイド・マンクージ**の指揮でお届けします。ソリストにはフォルクスオーパー専属歌手で、ウィーンを中心に世界各地の歌劇場や音楽祭で活躍する二人の歌手、**エリーザベト・フレヒル**（ソプラノ）と**メルツァード・モンタゼーリ**（テノール）を迎え、更に**パレエ・アンサンブル SV0 ウィーン**が美しいウィнна・ダンスでステージに華を添えます。

世界が揺れた2020年の終わり、サントリーホールで20年以上の伝統を誇る恒例のジルヴェスター・コンサートで、大人のカウントダウンをどうぞお楽しみください。

[チケットのお申し込み・お問合せ]

サントリーホールチケットセンター TEL 0570-55-0017 (10:00～16:00、休館日を除く)
 ※窓口は公演開催日のみ開演時間まで営業
 サントリーホール・メンバーズ・クラブ WEB <http://suntoryhall.pia.jp/>

— 記 —

サントリーホール ジルヴェスター・コンサート 2020~2021

ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団

Suntory Hall Silvester Concert 2020-2021

Symphonie-Orchester der Volksoper Wien

【日時】 2020年12月31日（木）22:00開演（21:00開場）～2021年1月1日（金・祝）0:20頃終演予定

【会場】 サントリーホール 大ホール

【出演】

ソプラノ：エリーザベト・フレヒル Elisabeth Flechl, Soprano

テノール：メルツァード・モンタゼーリ Mehrzad Montazeri, Tenor

指揮：グイド・マンクージ Guido Mancusi, Conductor

ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団 Symphonie-Orchester der Volksoper Wien

バレエ・アンサンブル SVO ウィーン Ballett Ensemble SVO Wien

【曲目】

ニコライ：オペラ『ウィンザーの陽気な女房たち』序曲

Otto Nicolai: Overture to *Die lustigen Weiber von Windsor*

ヨハン・シュトラウス II 世：オペレッタ『こうもり』より チャールダーシュ「故郷の調べは」

Johann Strauss Jr.: Csárdás “Klänge der Heimat” from *Die Fledermaus*

ヨハン・シュトラウス II 世：オペレッタ『シンプリチウス』より ワルツ「ドナウ川の乙女」作品 427

Johann Strauss Jr.: “Donauweibchen” Waltz, Op. 427 from *Simplicius*

コルンゴルト：「君は我が夢」

Erich Wolfgang Korngold: “Du bist mein Traum”

ヘルメスベルガー II 世：『悪魔の踊り』

Joseph Hellmesberger Jr.: *Teufelstanz*

カールマン：オペレッタ『マリッツァ伯爵家令嬢』より「もう一度踊りたい」

Emmerich Kálmán: “Einmal möcht’ ich wieder tanzen” from *Gräfin Mariza*

ベルリオーズ：『ラーコーツィ行進曲』

Hector Berlioz: *Marche de Rákóczi*

ホイベルガー：オペレッタ『オペラ舞踏会』作品 40 序曲

Richard Heuberger: Overture to *Der Opernball*, Op. 40

レハール：オペレッタ『この世は美しい』より「この世は美しい」

Franz Lehár: “Schön ist die Welt” from *Schön ist die Welt*

ロサス：ワルツ『波濤を越えて』

Juventino Rosas: *Sobre las olas* Waltz

ヨーゼフ・シュトラウス：『ハンガリー戴冠式行進曲』作品 225

Josef Strauss: *Ungarischer Krönungsmarsch*, Op. 225

カールマン：『マリッツァ伯爵家令嬢』より「ジプシーが弾くヴァイオリンを聴けば」

Emmerich Kálmán: “Höre ich Zigeunergeigen” from *Gräfin Mariza*

レハール：オペレッタ『メリー・ウィドー』より「バルジレーネン・ワルツ」

Franz Lehár: “Ballsirenen-Walzer” from *Die lustige Witwe*

ヨハン・シュトラウス II 世：ポルカ・シュネル『ハンガリー万歳』作品 332

Johann Strauss Jr.: *Éljen a Magyar! Polka schnell*, Op. 332

カールマン：オペレッタ『チャールダーシュの女王』より「踊りたい」

Emmerich Kálmán: “Tanzen möcht’ ich” from *Die Csárdásfürstin*

ツィーラー：ワルツ『夜更かし大好き』作品 466

Carl Michael Ziehrer: *Nachtschwärmer Waltz*, Op. 466

他

etc.

【主催】サントリーホール

【後援】オーストリア大使館、オーストリア文化フォーラム

【チケット料金】S12,000円 A10,000円 B8,000円 C6,000円（消費税込）

※本公演は深夜におよぶため、18歳未満の方の入場には保護者の同伴または同意書が必要です。

※就学前のお子様の同伴・入場はご遠慮ください。

【チケット発売】

サントリーホール・メンバーズ・クラブ先行発売 2020年9月12日（土）10時～9月26日（土）

一般発売 2020年9月27日（日）10時～

サントリーホール・メンバーズ・クラブ WEB <http://suntoryhall.pia.jp/>（24時間受付）

※メンバーズ・クラブは要事前登録（会費無料・WEB会員は即日入会可）

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017（10:00～16:00、休館日を除く）

サントリーホール窓口（10:00～16:00、公演開催日のみ開演時刻まで営業、休館日を除く）

※先行期間中は窓口での販売は致しません。

チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード：187-059]

イープラス eplus.jp

ローソンチケット 0570-000-407 [Lコード：33722]

※新型コロナウイルス感染拡大防止の対応上、出演者・曲目等に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。最新情報は、ホームページでお知らせします。

【プロフィール】

■ソプラノ：エリーザベト・フレヒル **Elisabeth Flechl, Soprano**

オーストリア出身。ウィーン国立音楽大学で学ぶ。シュッツからオルフまで幅広いレパートリーを持ち、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『マリツァ伯爵家令嬢』タイトルロールほか多数の役柄をこなす。ウィーン楽友協会、ゼンパーオーパーなど世界各地の主要な劇場や音楽祭で活躍。日本では、2012年のフォルクスオーパー来日公演のほか、18年、新国立劇場での『こうもり』にロザリンデ役で登場。16年よりウィーン国立音楽大学で教鞭をとるほか、ソロトゥルン（スイス）の音楽祭では、ソリストとして出演するのみならず、アーティスティック・アドヴァイザーとして、レクチャーやコンサートを企画している。フォルクスオーパーでは専属歌手として長年活躍中。『ボッカチオ』ベアトリーチェ、『チャールダーシュの女王』シルヴァ、『こうもり』ロザリンデ、『メリー・ウィドー』ハンナなど、数多くのヒロインを務めてきた、ウィーンっ子にはお馴染みのディーヴァである。

■テノール：メルツァード・モンタゼーリ **Mehrzad Montazeri, Tenor**

テヘラン生まれのオーストリア人。ウィーンのシューベルト音楽院、ウィーン国立音楽大学、ウィーン私立音楽芸術大学で学ぶ。数々のコンクールで入賞を重ね、バイロイト音楽祭で奨学生として研鑽を積んだのち、ヨーロッパを中心に世界各国の劇場や音楽祭、コンサートに出演。レパートリーは、オペラでは『コジ・ファン・トゥッテ』フェランド、『後宮からの誘拐』ペドリロ、『3つのオレンジの恋』トルファルディーノ、『魔笛』タミーノ、『魔弾の射手』マックス、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『蝶々夫人』ピンカートンほか多数。オペレッタでは、『ボッカチオ』ピエトロ王子、『乞食学生』シモン、『ヴェネツィア一夜』ウルビーノ大公など。メータ指揮『後宮からの誘拐』DVD、メルビッシェ湖上音楽祭での1999年『ヴェネツィア一夜』CD、2003年『ジュディッタ』CD・DVDの収録に参加。フォルクスオーパーには04/05シーズンにデビューし、翌シーズンから専属歌手を務めている。同楽団との日本での年末年始のコンサートは、今回で7度目の出演となる。

■指揮：ガイド・マンクージ **Guido Mancusi, Conductor**

イタリア、ナポリ生まれ。ウィーン少年合唱団でソプラノ・ソリストを務めたのち、カペルマイスターとしてアン・デア・ウィーン劇場などで指揮。フィッシャー、ムーティの助手として、ミラノ・スカラ座やバイロイト音楽祭でも研鑽を積む。91年、優れたモーツァルト解釈が評価され、モーツァルト・メダルを授与される。97年～2000年クロスターノイブルク・オペラ・フェスティバルの芸術監督、01年～07年クラゲンフルト市立劇場の首席指揮者、1998年よりシェーンブルン宮殿オーケストラの首席指揮者を務めるなど、ウィーンを中心に国際的に活躍。ウィーン私立音楽芸術大学で教鞭をとりつつ、作曲家としても活動。オラトリオ『母なる大地』はウィーン楽友協会でも初演された。フォルクスオーパーとの関係は長きにわたり、『魔笛』『ヘンゼルとグレーテル』『ピノキオ』『マリツァ伯爵家令嬢』『メリー・ウィドー』『チャールダーシュの女王』『こうもり』などを指揮したほか、バレエ公演にも出演している。

■ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団 **Symphonie-Orchester der Volksoper Wien**

ウィーン・フィルと並び世界最高のウィンナ・ワルツ、ポルカを聴かせてくれるこの楽団は、ウィーンを代表するオペラ、オペレッタハウスとして1898年に創設されたウィーン・フォルクスオーパー（国民劇場）のオーケストラ・メンバーにより結成され、ウィーン市民に長く愛され続けている。

■バレエ・アンサンブル SVO ウィーン **Ballett Ensemble SVO Wien**

ウィンナ・ワルツの研究と継承、および典型的なウィンナ・ダンスの保護を目的としてウィーン・フォルクスオーパーを母体に結成されたバレエ団。今回も選りすぐりの2組のペアが、サントリーホールの舞台上に登場し、エレガントな宮廷舞踏と、時にコミカルな演出で舞台を盛り上げてくれる。